

令和 5 年 4 月 14 日現在

機関番号：10101

研究種目：若手研究

研究期間：2019～2022

課題番号：19K14440

研究課題名(和文)成人期自閉スペクトラム症に対する認知機能改善療法とリカバリー支援プログラムの効果

研究課題名(英文)The effects of cognitive remediation therapy and recovery support program for adult autism spectrum disorders

研究代表者

宮島 真貴(Miyajima, Maki)

北海道大学・保健科学研究所・助教

研究者番号：30779773

交付決定額(研究期間全体):(直接経費) 3,200,000円

研究成果の概要(和文):急性期精神科病棟に入院する気分障害および自閉スペクトラム症傾向をもつ患者への認知機能改善療法とリカバリー支援プログラムの複合支援を行った。その結果、社会機能(GAF;  $p < .01$ ),主観的(IMRS;  $p < .05$ , RAS;  $p < .05$ )および客観的パーソナルリカバリー(IMRS;  $p < .01$ ),不安や抑うつなどの気分障害(POMS;  $p < .05$ , QIDS;  $p = .05$ )の改善が認められた。さらに、対象者の転帰では、退院後の継続的な外来治療、職場や家庭への復帰といった転機など好転的な転機に至るものが多かった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は急性期精神科病棟に入院する気分障害および自閉スペクトラム症傾向をもつ者に、早期入院治療を実施することで、退院後の臨床的・主観的リカバリーの向上を目指した。その結果、社会機能、主観的および客観的パーソナルリカバリー、不安や抑うつなどの気分障害の改善が認められ、加えて退院後の継続的な外来治療、職場や家庭への復帰といった転機に至った。この成果は早期の機能訓練とリカバリー支援が好転的な転帰に影響する可能性を示唆した。

研究成果の概要(英文):We conducted a combined cognitive remediation therapy and recovery support program for patients with mood disorders and autism spectrum disorder tendencies admitted to an acute psychiatric ward. Results showed improvements in social functioning (GAF;  $p < .01$ ), subjective (IMRS;  $p < .05$ , RAS;  $p < .05$ ) and objective personal recovery (IMRS;  $p < .01$ ), and mood disorders such as anxiety and depression (POMS;  $p < .05$ , QIDS;  $p = .05$ ). In addition, many of the subjects' outcomes were positive, such as continued outpatient treatment after discharge and return to work and home.

研究分野：精神科作業療法

キーワード：疾患マネジメント リカバリー支援 精神科早期入院治療 認知機能改善療法

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

地域生活の促進、精神科医療機関の病床削減、早期退院は、精神科医療における世界的な重要課題である (Castillo et al. 2019)。また、薬物療法の発達による早期治療や、精神科医療機関への通院に対する患者の抵抗感の低下は、精神疾患の予後に好影響を与える重要な考慮事項である。しかし、精神疾患に罹患した患者の中には、慢性疾患となる人が一定数存在する。そのため、精神疾患の初発・再発のいずれにおいても、迅速な治療が重要である。急性期の精神疾患の治療では、一般に薬物療法をはじめとする治療法が、機能障害や精神症状の軽減、すなわち臨床的回復を目指すものである。しかし、臨床的回復と個人的回復は、今後の治療計画や治療動機に影響を与えるため、治療の初期段階においては、病気の再発防止と個人的回復の促進も考慮する必要がある。個人的な回復に関連する重要な概念として、アイデンティティ、人生の意味、つながり、エンパワーメント、将来への希望などが挙げられる (Leamy et al. 2011)。Illness Management and Recovery (IMR) プログラムは、個人的な回復を促進するための治療ツールとして開発された (McGuire et al. 2014)。さらに、多くの精神疾患は、前頭葉の機能障害と関連している。早期の認知機能改善療法は、認知機能を改善するだけでなく、日常生活機能への汎化が高いとは言えないまでも、中程度であると言われている。

申請者は、急性精神疾患患者の臨床的・個人的回復を、認知的再指導と疾病管理・回復介入が改善するはずであり、その結果、個人的回復の改善が社会的アウトカムの改善につながると考えられると仮説を立てた。

### 2. 研究の目的

本研究の目的は、精神科入院治療中の急性精神疾患患者、特に自閉スペクトラム症疑いや傾向のある気分障害圏の患者を対象に、前頭葉に特化した認知機能改善療法と疾病管理による効果を測定することである。

### 3. 研究の方法

#### 1) 対象者

本研究は前向き研究とし、1病院の急性期病棟に精神障害で入院した患者10名を対象とした。対象は、精神科急性期病棟に入院し、Diagnostic and statistical manual of mental disorders, 5th ed.による気分障害、不安障害、適応障害の診断を受け、年齢が20歳から65歳の患者を対象とした。また、臨床症状が消失し、しばらく病状が安定している患者を対象とした。除外基準は、知的障害、進行性の神経疾患、統合失調症、薬物関連障害のある患者であった。被験者は、急性期治療室に入院した患者の中から、主治医と臨床心理士がスクリーニングを行い、参加基準を満たした患者を募集した。

#### 2) 介入方法

通常の薬物療法、スタンダードケアに加え、認知的改善療法として前頭葉実行機能プログラム (FEP) を実施した。FEPは、認知的柔軟性、ワーキングメモリー、プランニングの3つのモジュールから構成される。FEPは44セッション実施した(週1時間×4セッション、11週間)。さらに、個人的な回復をサポートするために、IMRプログラムを実施した。IMRは、疾患教育、再発防止トレーニング、服薬アドヒアランス、ソーシャルスキルトレーニングなど、科学的根拠に基づいた支援方法をパッケージ化したものである。9つのテーマで構成されており、書かれたプリントをもとに、自分の学びを振り返り、自己を振り返る。これらの治療を週4回、2時間のセッションで、計35回実施させた。セラピストはFEPとIMRのスキルを持つ心理士と作業療法士で、サポートスタッフとして看護師が参加した。各グループは、患者2~5名とスタッフ2名で構成された。

### 4. 研究成果

#### 1) 対象者

対象者は、大うつ病性障害(n=6)、OCD(n=1)、不安障害(n=1)、混合型うつ病性不安障害(n=1)、ASD(n=1)であった。年齢中央値±四分位範囲(IQR)は50.5(46.0、60.5)歳であった。

#### 2) 治療による臨床的および個人的なりカバリー指標の変化

GAF(Global Assessment of Functioning)スコアは、治療終了時に有意に上昇した(p=0.008)。一方、QOL26(Quality of Life Scores)は、治療開始時と終了時で差がなかった(総スコアで

p=0.206)。また、個人的なりカバリーを反映するスコアも治療経過とともに上昇した。IMRS は、自己評価 (p=0.024) とセラピスト評価 (p=0.008) の両方で顕著に上昇した。また、RAS は治療終了時に値が上昇した (p=0.011)。

BACS を用いて評価した認知スコアは、治療開始時と終了時で統計的に有意な差は認められなかった (複合スコアは p=0.139)。気分関連症状については、治療終了時に POMS スコア (T スコアで p=0.025) QIDS スコア (p=0.050) が有意に減少した。

SASS-J で評価した社会適応度 (p=0.108) GSES で測定した自己効力感 (p=0.131) については、治療開始時と終了時の間に有意差は認められなかった。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 Miyajima Maki, Hatakeyama Yukie, Ichiki Kazumasa, Matsuzaki Yuri, Niyama Hazuki, Omiya Hidetoshi	4. 巻 10
2. 論文標題 A Pilot Study of Illness Management and Recovery in Patients Acutely Admitted to a Psychiatric Ward	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Journal of Psychosocial Rehabilitation and Mental Health	6. 最初と最後の頁 35 ~ 44
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1007/s40737-022-00289-1	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 Yuri Matsusaki, Hidetoshi Omiya, Yukie Hatakeyama, Kazumasa Ichiki, Hazuki Niyama, Maki Miyajima
2. 発表標題 A PILOT STUDY OF ILLNESS MANAGEMENT AND RECOVERY IN PATIENTS ACUTELY ADMITTED TO A PSYCHIATRIC WARD
3. 学会等名 The 22nd WPA World Congress of Psychiatry（国際学会）
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

6. 研究組織

氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------